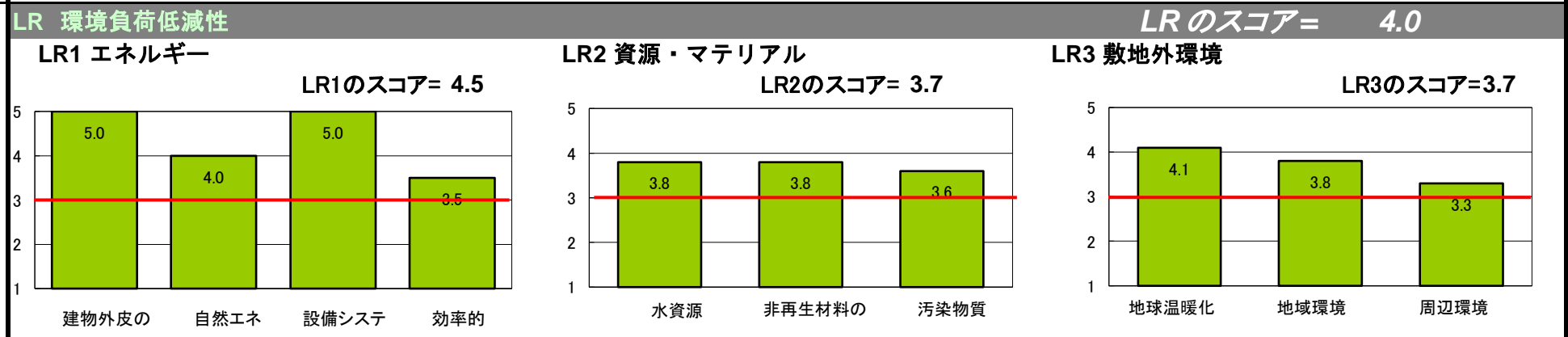
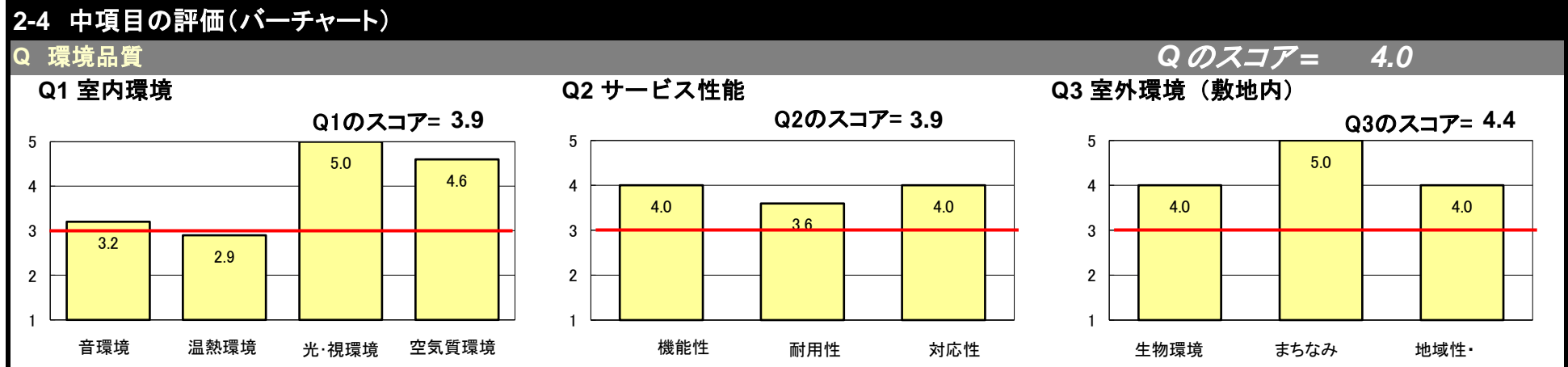
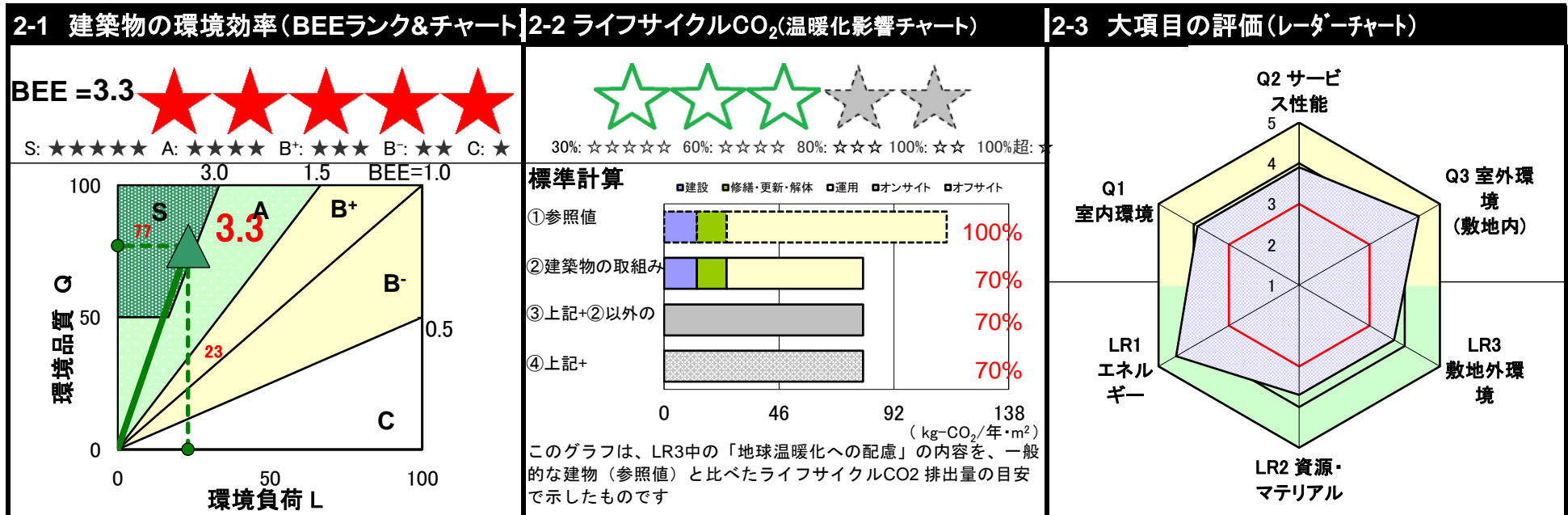


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	豊橋市斎場	階数	地上3階
建設地	愛知県豊橋市飯村町字北池上52番地36、228	構造	S造
用途地域	市街化調整地域	平均居住人員	219 人
気候区分	7地域	年間使用時間	305 時間/年
建物用途	集会所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年3月 予定	評価の実施日	2021年4月6日
敷地面積	8,536 m ²	作成者	大建設 土田正樹
建築面積	2,408 m ²	確認日	2021年4月7日
延床面積	4,401 m ²	確認者	大建設 中井勝巳



3 重点項目

<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.1</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>4.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>65.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.7</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>2.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>愛知県産木材(杉、桧)</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
床:タイルカーペット、天井:ロックウール吸音板											
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ゾーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
【集会所】外壁U=0.829、窓SC=0.5											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
明るさセンサー等にて照明の個別制御可能											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
外部・内部は全てF☆☆☆☆。化学物質濃度測定を実施											
4.2 換気											
1 換気量											
「建築基準法(シックハウス対応も含む)」を満たす換気量の1.2倍とする											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
汚染源のない方位及び異なる方位に設けている。											
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視											
2 喫煙の制御											
建物内禁煙とする											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
独自の条例を満たしている											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
インテリアパースによる内装計画を実施											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
防汚性の高い建材を採用、風除室に1次扉と2次扉を設けている											
2 維持管理用機能の確保											
清掃用具の保管場所、フロア毎に清掃流しを設置、エントランスにコンセントを設置											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
重要度係数I=1.25と設定											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
鉄骨:60年											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
床:花崗岩65年											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
給水・汚水・雑排水管全てBを満たす											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											
通信手段の多様化、浸水の危険性がない、災害時の地域防災無線設置											

3 対応性・更新性				0.2	4.0	0.29	-	-	-	4.0	
3.1 空間のゆとり			②	0.3	4.2	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり	【工場】階高=4.3m		-	5.0	0.24	-	-	-		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率【0.27】		3.0	4.0	0.76	-	-	-		
3.2 荷重のゆとり				【集会所】3,500N/m ² 、【工場】22,000N/m ²	3.0	4.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.8	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	構造材を痛めることなく、修繕・更新可能		-	3.0	0.17	-	-	-		
2	給排水管の更新性	仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕可能	3.0	4.0	0.17	-	-	-			
3	電気配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕可能	3.0	5.0	0.11	-	-	-			
4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕可能	3.0	5.0	0.11	-	-	-			
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-			
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペースを確保	3.0	4.0	0.22	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.34	-	-	-	-	4.4	
1 生物環境の保全と創出			独自③		4.0	0.30	-	-	-	4.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		5.0	0.40	-	-	-	5.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	4.0	0.30	-	-	-	4.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		4.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上					4.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	4.0	
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制				【集会所】BPI=0.40	3.0	5.0	0.26	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用				トップライト、光ダクトの採用	3.0	4.0	0.16	-	-	4.0	
3 設備システムの高効率化				【集会所】BEI=0.62	3.0	5.0	0.38	-	-	5.0	
4 効率的運用					0.2	3.5	0.20	-	-	3.5	
集合住宅以外の評価					1.0	3.5	1.00	-	-		
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-		
4.2	運用管理体制			3.0	4.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価					-	-	-	-	-		
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-		
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.7	
1 水資源保護				0.1	3.8	0.15	-	-	-	3.8	
1.1 節水					3.0	4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.6	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用システム導入		3.0	4.0	0.67	-	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.8	0.63	-	-	-	3.8	
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.20	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			②	再生クラッシュラン(舗装材料)、ビニル系床材(床)、吸音材料(天)	3.0	5.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			独自		3.0	2.0	0.05	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	内装が乾式工法(LGS)で分別性に配慮、可動間仕切りを採用	3.0	5.0	0.24	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				【集会所】タイルカーペット(エコGAセメント)、塗料(木部塗装)	3.0	5.0	0.32	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-		
1	消火剤			-	-	-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-		
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-		
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.7	
1 地球温暖化への配慮			①	換算スコア=4.1	-	4.1	0.33	-	-	4.1	
2 地域環境への配慮				0.3	3.8	0.33	-	-	-	3.8	
2.1 大気汚染防止				【集会所】燃焼機器を採用していない	-	4.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				地表面被覆材に配慮し、敷地外への熱的な影響を低減	-	4.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.2	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減	独自			-	3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制	独自		駐車場の確保、駐車台数確保及び場内通行に配慮する	-	4.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.3	0.33	-	-	-	3.3	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-		
1	騒音	独自			-	3.0	0.50	-	-		
2	振動	独自			-	-	-	-	-		
3	悪臭				-	3.0	0.50	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制				-	1.0	-	-	-		
3	日照阻害の抑制				-	3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制					0.2	4.7	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害ガイドラインを過半数満たす、広告照明設置なし	-	5.0	0.70	-	-		
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			西側のガラスに型板ガラスを使用	-	4.0	0.30	-	-		

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.6	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.10	外構緑化:65.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		2.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	愛知県産木材(杉、桧)

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	ご遺族・会葬者には、他葬家の存在を感じさせることなく、故人との最後のお別れに集中できるよう、北棟・南棟にゆるやかに分節したヒューマンスケールの内部空間や一筆書きの内部動線計画。／高齢者から子ども、障害者や外国人など、あらゆる施設利用者にとって使いやすいユニバーサルデザインの施設計画。／敷地外部から施設を見通せない植栽計画、周辺地域と調和した外観や、周囲への圧迫感を軽減する分節したデザインなど、周辺と調和した施設計画。
Q1 室内環境	屋根は遮熱塗料と屋根材裏面の断熱材により日射熱を遮り、居室への熱負荷を低減。／高気密のサッシと高断熱のLow-E複層ガラスを採用し、夏期や冬期の空調効率を向上。／告別・収骨室のトップライトや待合ロビーのハイサイトライトにより自然採光を確保。中間期には上昇気流による圧力差を利用した自然換気を促進し、空調負荷を低減。／地下ピットを有効利用し夏期はクールレンジ、冬期はヒートレンジとして冷暖房外気負荷低減。告別・収骨室ベンチ下に吹出し口。
Q2 サービス性能	公共施設として要求される性能を満たす仕様にて計画。／バリアフリーについては公共施設という特性上、誘導基準の半分以上に適合するものとして計画。／炉室関係バックヤードを建物西側に集約。会葬者動線に影響なく維持管理やメンテナンスができるように建物四周に車両動線を配慮。／事務・監視室に近接させてメンテナンス階段を配置。炉機械や屋外設備機器のメンテナンスに配慮。／2階待合室前にはメンテナンスバルコニーを設置。ガラスや外壁の清掃・補修に配慮。
Q3 室外環境(敷地内)	機能的でコンパクトな施設配置とし、圧迫感や日影の軽減。／十分な長さの車寄せを確保し、会葬者が混雑時もスムーズな乗降りに配慮。車いす利用者用駐車場は大屋根下部に設け会葬者にやさしい計画。／交差なく一筆書きのスムーズな車両動線。／炉等のバックヤードは建物西側に配置し、動線を明確に区分。／駐車場には透水性アスファルト舗装、緑化舗装を採用し雨水流出を抑制。／屋外に簡易雨水貯留槽を2箇所設け、雨水の一部を屋外散水に利用。
LR1 エネルギー	屋根は遮熱塗料と屋根材裏面の断熱材により日射熱を遮り、居室への熱負荷を低減。／空調機・換気機器・ポンプ類等については、経産省認定トップランナー方式の高効率機器を採用。／高気密のサッシと高断熱のLow-E複層ガラスを採用し、夏期や冬期の空調効率を向上。／告別・収骨室のトップライトや待合ロビーのハイサイトライトにより自然採光を確保。中間期には上昇気流による圧力差を利用した自然換気を促進し、空調負荷を低減。
LR2 資源・マテリアル	節水器具の採用、リサイクル資材の採用。／内装仕上材にはF☆☆☆☆以上のVOCの発生の少ない建材を使用。／御影石の床材、タイルの壁材、地元産木材による腰壁や家具類等、天然材料由来の仕上材を採用。／待合ロビー壁面には、天然鉱物などVOC吸着効果のある材料を採用。／「あいち木づかいプラン」「公共建築等における木材の利用の推進に関する法律」にも貢献できる愛知県産の木材を家具や待合室腰壁等に積極的に使用。
LR3 敷地外環境	敷地外部から施設を見通せない植栽計画、周辺地域と調和した外観デザインの採用や、周囲への圧迫感を軽減する分節したデザインなど、周辺と調和した施設計画。／低公害保証と高負荷運転を可能にした実績有る世界最高水準の公害防止能力を誇る火葬炉の採用。無煙・無臭の火葬炉システムを採用。／騒音・振動規制値よりも5dB低い騒音80dB、振動70dBを独自基準値とし、これを遵守。
その他	既存斎場の伐採木であるクスギを告別・収骨室の焼香台・遺影台その他に屋外ベンチ、キッズコーナー壁面アートに再利用。／「北棟」と「南棟」の2つのゾーニング分けにより、将来炉の入れ替え時に工事エリアと運用エリアを明確に分離し、施設運用に支障なく更新できる計画。／弓型の建物形状により屋外サービスヤードは奥行を広く確保し、炉など大型機器の交換の際に大型車両が停車して作業がしやすいように配慮。／鉄骨造により柱スパンを大きくし、将来的な炉の機器交換が行いやすいよう、空間的な自由度に配慮。